

# 天文教育

2019

7

*Japanese Society for Education and Popularization of Astronomy*



〈特集〉中部地区天文教育研究集会 in 志賀高原

〈投稿〉IAU と日本の天文学の 100 年

〈報告〉天文教育フォーラム報告 IAU100 年と天文教育

〈連載〉オランダでの望遠鏡発明の全容／社会教育施設について  
考える（WG 報告）

〈その他〉2019 年日本天文教育普及研究会年会のお知らせ

## 本誌原稿募集のお知らせ

編集部では下記の原稿を募集しております。会員の皆様からの活発なご投稿をお待ちしております。

1. **原著論文**：天文学教育・普及について、オリジナル性があり考察が優れ、学術論文として主な内容が印刷発表されていないもの。表題、アブストラクトには英文も付けてください。
2. **解説記事**：天文学や天文学教育・普及に関する解説・紹介記事。分量は刷り上がりで6～10ページ程度。
3. **各種の報告など**：支部会やワーキンググループの活動報告、各種のイベントの報告、また天文学教育・普及に関する授業の実践例など。分量は刷り上がりで2～4ページ程度。
4. **書評**：天文学や天文学教育・普及に関する書籍の紹介。分量は刷り上がりで1ページ程度。
5. **会員の声**：会員の皆様からのご意見・ご感想など。分量は刷り上がりで1ページ程度。
6. **表紙の写真**：タイトルと400字以内の「表紙の言葉」とともにご投稿ください（写真のみでも構いません）。
7. **情報コーナー（各種会合・イベントの告知など）**：支部会やワーキンググループの会合、また天文学に関する各種の会合・イベントなどの情報。分量は任意ですが、スペースの関係で適宜省略させていただく場合があります。会合・イベントの開催日と会誌の発行日（奇数月下旬）にご留意ください。

・ **締め切り**は1は原則として奇数月末日、2～7は偶数月15日。投稿先は [post@tenkyo.net](mailto:post@tenkyo.net) です。

・ **広告掲載**を希望される方は事務局 ([jimu@tenkyo.net](mailto:jimu@tenkyo.net)) までお申込みください。掲載料はB5判1ページ ¥20,000、半ページ ¥12,000、1/4ページ ¥7,000、チラシの折り込み ¥20,000です。

※本誌に掲載された記事は、当会 Web サイト (<https://tenkyo.net/>) にて PDF ファイルの形で公開を予定しております。インターネットでの公開に差し障りのある場合は、ご投稿の際にその旨ご連絡をお願いいたします。

なお、2014年9月号から、当会会員に対しては会誌発行後に速やかに、パスワード制限をかけた形で閲覧できるようにし、発行から1年経過後にパスワード制限を解除して、広く一般に公開いたします。

### 【編集委員会からのお願い】

『天文学教育』の編集は、すべて会員からなる編集委員によって行なわれています。ご投稿の際には以下の点についてご協力いただけますよう宜しくお願いいたします。

- ・ 原稿の投稿は、原則として Microsoft Word ファイルでお願いします。
- ・ 執筆用のテンプレートがホームページ (<https://tenkyo.net/>) からダウンロードできます。できるだけこのテンプレートをご利用くださるようお願いいたします（執筆上の留意点なども記しています）。
- ・ 十分に推敲を重ねた完全原稿でご提出ください。分量や内容によっては手直しいただく場合もあります。
- ・ 提出データは必ず各自でバックアップしておいてください。
- ・ Word 以外に一太郎ファイルやテキストファイルでも受け付けております。
- ・ 原稿のご投稿やご質問は電子メールにて、下記のアドレスへお願いいたします。

投稿先・質問先 メールアドレス：[post@tenkyo.net](mailto:post@tenkyo.net)

## 表紙の言葉

### かんむり座 HD 145457

2018年6月22日2時26分、Canon EOS5D Mk IV AF-S NIKKOR 24-70mm F2.8G ED 猿倉林道 (長野県白馬村)  
撮影者：大西浩次

わたしたちが見上げる星空の彼方に、わたしたちと同じように星空を見上げている人はいるだろうか？1995年の最初の太陽系外惑星（系外惑星）の発見以来、すでに、4000個以上の系外惑星が発見されています。そうして、現在、惑星系の多様性の研究や第2の地球の探査が盛んに行われています。この様な状況のもとで、今年、国際天文学連合（IAU）設立100周年を記念したイベントとして、世界中のすべての国・地域に一つの系外惑星系を命名する「太陽系外惑星命名キャン

ペーン IAU100 Name ExoWorlds」が始まっています。

ここで、日本が命名する系外惑星系は、かんむり座の恒星 HD 145457 とその巨大ガス惑星 HD 145457 b です。この惑星系は、国立天文台のすばる望遠鏡と岡山天体物理観測所 188cm 反射望遠鏡によって発見されたものです。主星は、太陽質量の1.9倍の橙色巨星で、その周りを木星質量の2倍ほどの惑星が公転周期しています。

かんむり座は、うしかい座のアルクトゥールスの隣に見える7つの星の並びです。HD 145457の明るさは6.6等級、双眼鏡や小型望遠鏡では楽に見えるでしょう。かんむり座は、初夏から秋まで、宵の空で見ることがのできるのです。今年の夏の観望対象に入れてみるのと良いでしょう。

(大西浩次)